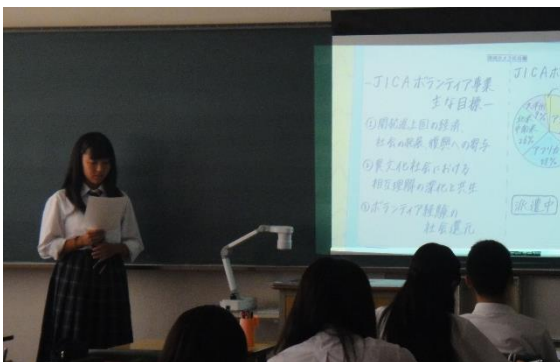


6月19日「第3回SDGs講演会」が、本校視聴覚教室で実施されました。



今年度からスタートした山田高校SDGs探究活動の報告です。
第3回SDGs講演会が、1年生の総合的な探究の時間(6/19)の中で開催されました。
テーマは、『世界のSDGsの現状と課題』～JICA関西の取り組み～
講師は、JICA関西 開発教育支援事業担当 吉田悦子氏
JICA 青年海外協力隊 OG 古川祐子氏のお二人です。

- 講師 JICA 関西 開発教育支援事業担当 吉田悦子氏のメッセージ
2011年の東日本大震災では、日本は世界中から多額の支援を受けている。この年は196カ国のうち、174の国と地域から支援を受けた。援助金1640億円の中には最貧国に分類される国からの支援もある。日本が開発途上国を支援しているだけでなく、開発途上国からもエネルギー、労働力、食料などが入ってきている、お互いに支えあっているという事が、国際協力をする大きな理由のひとつです。
- 講師 JICA 青年海外協力隊 OG 古川祐子氏のメッセージ
ソロモン女性が、手芸が得意で興味を持っていることがわかったので、これを活用して環境改善に結びました。実際にワークショップを開くときにはファシリテーションはこの女性たちにやってもらい、私はノータッチでした。そうすることで私がいなくなってもこの活動を存続させようと思いました。
- 講演後の生徒発表の様子(6/26)



●生徒のレポートより抜粋

- JICA の海外協力隊に参加された方の話が聞けたことはすごく貴重だったと思います。参加しようと思ったきっかけや、現地での困難や成果など、実際に携わらないと分からないことだと思うので、聞くことができて良かったです。2つの課題について1つの提案で解決を目指すことは簡単なことじゃないし、その提案が現地の人にあってるかや押し付けにならないようにしなければならぬなどから、発想と気遣いが大切だと感じました。そして、今までは自分で何かできることではないと考えていたジェンダー問題について、女性だからといって何かを諦めたりしないことが大切だという事が分かりました。
- 私がもし海外協力隊の一員だったら、積極的に環境の授業を行い、現地の人々が自分から貧困脱出できるような知識を教えて、根本から解決してあげたいです。自分が SDG s のために行う行動が本当に目的に合っているかをしっかり考えて行動していきたいです。
- 人々は目的や目標を見失うと恐ろしい行動をとることがあります。そんな時に目的、目標を確認し、それを達成するためにはどのようなことをすれば良いのかを教えてあげることが、本当の支援だと考えました。そして、それを、支援がなくなっても目的、目標を忘れず、自分たちの力だけでも活動し続けてもらうことが大切だと分かりました。
- 今回の講演を聞いて印象に残ったことは、海外に恩返しの意味も込めて国際協力をしようというものです。講演の中で、世界の様々な問題を解決するためには、国と国との協力が必要だと話されていました。戦後の日本の給食、東日本大震災、どれも海外から助けられたからこそ今の日本があるのだと知りました。私は他国への恩返しだというふうに考えるとなんとなく自分もやらなくちゃと感じました。
- 私は SDG s について深く知ることができているつもりでいましたが、そうではありませんでした。SDG s とは、国連の人のような特別な団体が中心となって物事を行うだけではなく、誰もが中心となりうるもので、17の目標を達成できるのだと実感できました。

(*) SDG s とは、2015年国連で決めた、人類が達成すべき17個の目標のことで、Sustainable Development Goals の略です。

